

IV 文化財センターの概要

1 開館に至る経緯

(1) 概要

新潟市埋蔵文化財センター（北区太郎代）を引き継ぎ、平成23年7月30日に西区木場に新潟市文化財センターがオープンした。旧黒埼町との合併建設計画によるもので、平成21年度・22年度に建設や展示製作が行われた。総工費は約19億8千万円である。

文化財センターは、埋蔵文化財及び民俗文化財を保存し活用を図ることにより、文化財に対する市民の関心及び理解を深め市民文化の向上に資するため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第30条に基づき設置された教育機関である。

事業は、①埋蔵文化財の調査及び研究に関すること、②発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他活用に関すること、③有形民俗文化財の保存及び活用に関すること、があげられる。

平成17年の14市町村の広域合併後、各種開発事業等の増加に伴い発掘調査も増加の一途をたどり、遺跡も年々増加している。文化財センターは、各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、出土品の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために設置された。

(2) 経緯

平成12年の新潟市・黒埼町合併建設計画に、県指定史跡「緒立遺跡」等の出土品の収蔵・活用の施設として「埋蔵文化財収蔵庫建設事業」（面積784㎡）が計画された。平成13年には近接の県指定史跡「的場遺跡」出土品も含め、老朽化した旧太郎代小学校校舎を利用した埋蔵文化センターを拡充した「新埋蔵文化財センター建設案」（面積1,600㎡）に変更された。建設候補地は緒立遺跡周辺に用地を取得する計画であった。

平成14年に黒埼南部3小学校跡地利用検討の中で、建設候補地として旧黒鳥小学校跡地が候補として浮上した。平成15年には、予定されていた13市町村の合併計画に併せ建築面積が1,600㎡から2,700㎡に拡大された（出土品7,200箱収容）。

平成17年には、旧新津市・巻町との合併により出土品が1万箱以上に増えたことに伴い、面積が3,600㎡に変更された。さらに旧黒鳥小学校跡地では敷地面積が狭く建設が困難なことから、旧木場小学校跡地に計画が変更された。

平成18年には旧木場小学校グラウンド跡地に建設する

表1 文化財センター建設関連事業

区分	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
本館	基本計画	測量 地質調査 基本設計	実施設計	建設・電気 空調・衛生	建設・電気 空調・衛生 ガス	-
展示		基本設計	実施設計	展示製作	展示製作 遺物修復 レプリカ製作	映像ソフト製作
周辺道路	-	-	測量設計	詳細設計 改良工事	改良工事	-
その他 工事	-	-	-	プール解体工事	-	木造校舎解体 駐車場造成
その他	-	-	-	システム 備品購入 再整理作業	システム 備品購入 再整理作業	遺物搬入 民具搬入 再整理作業
旧武田家 住宅	現況調査	解体調査 工事	組立実施 設計	組立工事	組立工事 電気設備工事 展示製作	-

こと、延床面積約3,600㎡であること、合併建設計画の年限である平成22年度までには工事を完了し、平成23年度に開館することが決まった。さらに、旧木場小学校校舎を利用した大形民具収蔵庫内の民具も一体として活用し、新潟市指定文化財民家旧宅（旧武田家住宅）を移築し、一体的に整備することも決められた。これにより、新潟市・黒埼町合併建設計画「埋蔵文化財収蔵庫建設事業」と「旧武田家住宅（常民文化史料館）全面改築事業」が一体として進められることになったのである。

施設名称は、当初は「埋蔵文化財センター」として計画されたが、民俗資料収蔵庫が設けられたことにより「文化財センター」に変更となった。

(3) 建設事業

文化財センター建設事業は、表1の通り平成18年度の基本計画策定から平成22年度竣工まで5か年にかけて行われ、平成18年度に設置された新埋蔵文化財センター建設等検討委員会（甘粕健委員長）の意見を参考にしながら進められた。センター本館は、平成18年度基本計画、平成19年度基本設計、平成20年度実施設計、平成21年度・平成22年度に建設工事を行った。展示製作・周辺道路整備工事や、旧武田家住宅の解体・組立工事等も併せて行われた。文化財センター建設事業の決算額は表2の通りである。この他に省エネ設備設置事業として、太陽光発電設備、風力・太陽光発電（ハイブリッド）LED外灯、LED照明が設置された。

(4) 開館

平成23年度には文化財センターや遺跡の紹介ビデオ製作し、旧埋蔵文化財センターや埋蔵文化財センター新津分室にあった遺物の搬入、民具の搬入を行い平成23年7月30日に開館した。その他、大形民具収蔵庫として使用され老朽化した旧木場小学校木造校舎の解体工事と大形バス用の駐車場造成工事を行った。

表2 文化財センター建設事業費

支出

(単位:円)

区 分	全体事業費	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
工事請負費	1,512,602,700		12,967,500		352,664,750	1,146,970,450
新センター	1,320,115,650				308,790,000	1,011,325,650
建設工事	969,667,650				280,690,000	688,977,650
電気設備工事	122,829,000				12,100,000	110,729,000
空調設備工事	157,444,350				16,000,000	141,444,350
衛生設備工事	65,890,650					65,890,650
ガス設備工事	4,284,000					4,284,000
旧武田家住宅	108,796,800		12,967,500		14,900,000	80,929,300
解体調査工事・組立工事	104,595,750		12,967,500		14,900,000	76,728,250
電気設備工事	4,201,050					4,201,050
周辺道路改良工事	74,363,100				23,421,300	50,941,800
プール解体工事	5,553,450				5,553,450	
その他工事	3,773,700					3,773,700
委託料	345,114,997	8,988,000	27,241,200	39,911,550	37,672,217	231,302,030
新センター	87,962,200	3,990,000	19,177,200	29,200,000	12,374,000	23,221,000
建設基本計画策定委託	3,990,000	3,990,000				
地質調査委託	2,196,600		2,196,600			
測量調査委託	4,905,600		4,905,600			
建築基本設計委託	12,075,000		12,075,000			
建築実施設計委託	29,200,000			29,200,000		
工事監理委託	35,595,000				12,374,000	23,221,000
展示製作	208,426,050		3,150,000	3,391,500	7,179,837	194,704,713
展示基本設計委託	3,150,000		3,150,000			
展示実施設計委託	3,391,500			3,391,500		
展示製作委託	145,919,550				7,179,837	138,739,713
レプリカ製作委託	39,900,000					39,900,000
遺物修復委託	16,065,000					16,065,000
旧武田家住宅	17,409,500	4,998,000	4,914,000	6,500,000		997,500
現況調査、解体工事設計書作成委託	4,998,000	4,998,000				
解体調査工事監理委託	4,914,000		4,914,000			
組立実施設計委託	6,500,000			6,500,000		
展示製作委託	997,500					997,500
埋蔵文化財情報管理システム委託	24,220,350				12,600,000	11,620,350
周辺道路整備	6,338,430			820,050	5,518,380	
周辺道路整備測量・詳細設計委託	3,375,750			820,050	2,555,700	
用地測量・路線測量・分筆測量委託	2,962,680				2,962,680	
その他委託	758,467					758,467
備品購入費	75,268,496		504,000		6,135,808	68,628,688
埋蔵文化財再整理事業	9,758,976				4,962,078	4,796,898
事務費等	14,566,958	307,405	788,267	652,312	1,571,922	11,247,052
合 計	1,957,312,127	9,295,405	41,500,967	40,563,862	403,006,775	1,462,945,118

財源内訳

(単位:円)

区 分	全体事業費	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
財源						
国庫補助金	193,392,000				11,581,000	181,811,000
起債	1,634,500,000		17,900,000	40,500,000	377,900,000	1,198,200,000
一般財源	129,420,127	9,295,405	23,600,967	63,862	13,525,775	82,934,118
合 計	1,957,312,127	9,295,405	41,500,967	40,563,862	403,006,775	1,462,945,118

(単位:円)

区 分	全体事業費	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
省エネ設備工事	18,378,150					18,378,150
総 合 計	1,975,690,277	9,295,405	41,500,967	40,563,862	403,006,775	1,481,323,268

(5) 施設情報

新潟市文化財センター

住 所 新潟市西区木場2748番地1

開館時間 午前9時～午後5時

休 館 日 月曜日・休日の翌日・年末年始(12月28日～1月3日)

入 館 無料

体 験 無料・有料(表3)

駐 車 場 本棟 67台(身障者用2台分)
隣接駐車場 27台、大型バス4台

交 通 新潟交通バス「黒埼農協前」から徒歩25分

(6) 基本理念

平成18年度に策定された基本計画では以下のように基本理念が記されている。「新埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査・研究・整理・保存を中心とした役割を担いながらも、調査研究の成果を市民に還元するための活用事業を一層強化していく。活用手法においては、市民参加や市民との協働の視点を重視することとし、大人から子供まで市民全体が市の歴史文化や古代の知恵を共有できる施設としていく。

地域住民、児童生徒・学生・教育関係者及び研究者等が世代を超えて交流し、展示と体験を一体化した、住民に親しまれる施設を目指す。

職員は埋蔵文化財の調査・研究を行うとともに、出土品等を活用し、広く市民に埋蔵文化財についての知識を深めてもらうことを目的とする事業を行う。また、職員だけでなく、研究者・友の会やボランティアなど市民との協働により新埋蔵文化財センターを支えていく仕組みをつくる。今後、市民参加組織を立上げ、市民との掛け橋としてお互いが協力して役割を担うことで「新潟の宝となる施設」に成長させていく。新埋蔵文化財センターを「まちづくり」や「地域のアイデンティティ確立」に活用してもらうため、積極的な情報発信を行う。」

文化財センターの設置目的、基本計画策定時の基本理念を遂行するために、平成25年度に運営協議会を発足する準備を行っている。(渡邊朋和)

表3 文化財センターの体験メニュー料金

メニュー	料金(円)	所要時間	団体対応
勾玉づくり	ゆっくりコース 200	約60分	60人まで
	スピードコース 500	約40分	なし
拓本体験	1枚 50	約30分	15人まで
和同開珎づくり	1枚 200	約30分	36人まで
土偶づくり	500g(約8個) 100	約30分	60人まで
土器づくり	500g(約1個) 100	約120分	30人まで
火起こし体験	無料	約30分	60人まで
土器パズル	無料	約10分	なし

2 組織と職員

(1) 新潟市の埋蔵文化財保護行政

文化財の保護に関する事務は、教育委員会が管理執行すると定められているが(『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』)、本市では歴史文化課・文化財センターの職員が補助執行することとしている(『新潟市行政組織規則』)。

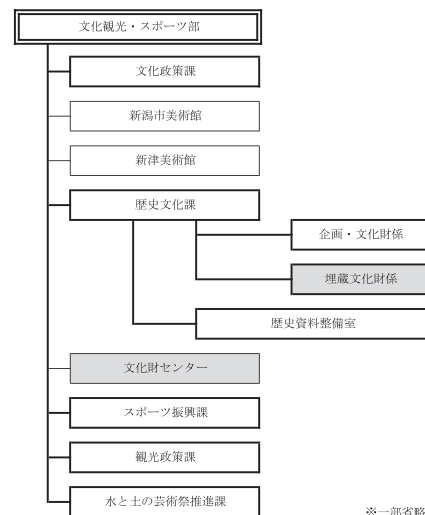
現在、埋蔵文化財保護に関する業務は、歴史文化課埋蔵文化財係と文化財センターで行っている。

(2) 組織機構の推移

- ・総務局国際文化部歴史文化課(平成11年4月～平成19年3月31日) 平成10年までは教育委員会に所属。
- ・文化スポーツ部歴史文化課(平成19年4月1日～平成20年3月31日)
- ・文化観光・スポーツ部歴史文化課(平成21年4月1日～現在)
- ・新潟市埋蔵文化財センター(北区太郎代 平成7年4月1日～平成23年7月) 平成7年～平成10年までは教育委員会に所属。平成11年以降市長部局に移管。
- ・新潟市文化財センター(西区木場 平成23年7月30日～現在) 課長級機関

(3) 文化財保護行政の組織機構

図1の通り、歴史文化課・文化財センターは文化観光・スポーツ部に属している。図に記されていないものとして、歴史文化課が所管している施設として新潟市指定文化財旧小澤家住宅と新潟市歴史博物館があり、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が指定管理を行っている。また、文化財センターが所管している施設として新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場があり、直営で管理を行っている。



※一部省略

図1 文化観光・スポーツ部の組織機構図(平成23年度・平成24年度)

(4) 文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財係
職員名簿

表4 文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財係職員名簿
平成23年度

文化財センター		
所長(学芸員)	高橋 保(新潟県より派遣)	埋蔵文化財
所長補佐	丸山徳幸	事務
主任(学芸員)	渡邊朋和	埋蔵文化財
副主幹(学芸員)	前山精明	埋蔵文化財
主査(学芸員)	遠藤恭雄	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	諫山えりか	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	龍田優子	埋蔵文化財
主査(学芸員)	相田泰臣	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	今井さやか	埋蔵文化財
副主査(学芸員)	潮田憲幸	埋蔵文化財
副主査	山口泰慶	事務
非常勤職員	土佐夕美子	事務
非常勤職員	牧野耕作	埋蔵文化財
非常勤職員	酒井和男	民俗文化財
非常勤職員	磯部保衛	埋蔵文化財
臨時職員(学芸員)	高野(相澤)裕子	埋蔵文化財
臨時職員(学芸員)	澤野慶子	埋蔵文化財
臨時職員(学芸員)	八藤後智人	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	朝岡政康(新潟県へ派遣)	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財係		
係長(文化財専門員)	廣野耕造	埋蔵文化財
主査	渡邊ますみ	埋蔵文化財
主査(学芸員)	立木宏明	埋蔵文化財
非常勤職員	真田 敦	事務

平成24年度

文化財センター		
所長(学芸員)	高橋 保(新潟県より派遣)	埋蔵文化財
所長補佐	丸山徳幸	事務
主任(学芸員)	渡邊朋和	埋蔵文化財
副主幹(学芸員)	前山精明	埋蔵文化財
主査(学芸員)	立木宏明	埋蔵文化財
主査(学芸員)	遠藤恭雄	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	龍田優子	埋蔵文化財
主査(学芸員)	相田泰臣	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	今井さやか	埋蔵文化財
副主査(学芸員)	潮田憲幸	埋蔵文化財
副主査	山口泰慶	事務
非常勤職員	土佐夕美子	事務
非常勤職員	牧野耕作	埋蔵文化財
非常勤職員	酒井和男	民俗文化財
非常勤職員	寺崎裕助	埋蔵文化財
非常勤職員	磯部保衛	埋蔵文化財
非常勤職員	相澤裕子	埋蔵文化財
非常勤職員	澤野慶子	埋蔵文化財
非常勤職員	八藤後智人	埋蔵文化財
主査	朝岡政康(新潟県へ派遣)	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財係		
係長(文化財専門員)	廣野耕造	埋蔵文化財
主査	渡邊ますみ	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	諫山えりか	埋蔵文化財
非常勤職員	真田 敦	事務

(渡邊朋和)

3 施設

(1) 施設概要

新潟市文化財センターは敷地面積9,916.00㎡で、敷地内にはセンター本館の他、市指定文化財旧武田家住宅と畜動舎が移築されている。また、屋外には体験学習用として広場と畑が設けられている。センター本館はRC造、地上3階建て、建築面積2,559.25㎡、延床面積は4,494.83㎡である(表4)。諸室面積は表5に記載した通りである。

文化財センター本館 1階は共用部分として、エントランスホール、展示室1・2、研修室1・2、非共用部分として特別収蔵庫1・2、民俗資料収蔵庫、金属製品保存処理室・木製品保存処理室等がある。ピロティには保存処理前の木製品を仮保管するための大形水槽を備えている。

研修室1・2は、研修室と工作室を兼ね、スライディングウォールによって2室に分けて使用することが可能である。研修室2は通常体験学習用の工作室として利用しているが、2室を併せればテーブル付きで約100人、テーブルなしで130人の収容が可能である。廊下側の折り畳み戸を開ければさらに収容人数を増やすことができる。工作室用倉庫には土器焼成のための、還元焰焼成も可能な電気窯がある。屋外トイレも設置されているが、屋外イベントだけではなく、研修室で行う講演会等の対応も意図したものである。

2階は、共用部分の図書室、ボランティア室、クロサキデッキの他は非共用部分である。埋蔵文化財収蔵庫1、資料収蔵庫、調査研究室、遺物洗浄室、写場等がある。調査研究室は調査記録や遺物の整理、報告書作成等を行う部屋である。3階には埋蔵文化財収蔵庫2があり、1階の荷解・搬入口とは荷物用エレベーターで、2階の埋蔵文化財収蔵庫1とは階段でもつながっている。

VI1・2に記載したように、特別収蔵庫1・2、展示室は将来的に重要文化財を収蔵保管、展示可能なように温度・湿度・使用光源・照度を設定している。資料収蔵庫も同様である(表7)。

文化財センターには外部電源の供給口を設けているので、停電の際には発電機等の非常用電源からの電力供給が可能である。

旧武田家住宅 旧黒埼町常民文化史料館として利用されていた建物である。江戸時代後期に造られた黒埼地域における裏中門造りの代表的民家として市指定文化財になっている。なお、茅葺屋根の保存のために秋から冬にかけてはほぼ毎日、燻蒸作業を行っている。

畜動舎 明治から昭和初期にかけて越後平野の農家に多くあった牛馬を使う脱穀施設である。

駐車台数は本館前39台、外周28台であったが、平成23年度の旧木場小学校校舎側の駐車場造成工事で27台と大形バス用4台が増えた。

(2) 施設の詳細

所在地 新潟市西区木場2748番地1他

主要用途 展示室、収蔵庫

文化財センター設計・監理 山下設計

文化財センター施工 建築：小川組 電気：友和・イーイーケイ特定共同企業体 空調：丸高工業 衛生：新潟企業 ガス：北陸ガス

旧武田家住宅施工 建築：松井建設 電気：電友舎 衛生：新潟企業

設計期間 2007年10月～2009年3月

工事期間 2009年7月～2011年1月

展示設計・監理 丹青社 展示施工 丹青社

設計期間 2007年11月～2009年3月

工事期間 2009年8月～2011年2月

建築概要

敷地面積 9,916.00㎡ 建ぺい率 26.07% (許容70%角地加算) 容積率 45.59% (許容200%) 最高高さ 文化財センター：13.5m、旧武田家住宅：8.824m 軒高 文化財センター：12.76m、旧武田家住宅：2.76m 階高 4.0m 天井高さ 2.6～3.05m (展示室4.0～6.6m) 主なスパン 7.2m×7.75m 道路幅員 7m 駐車台数 39台 地域地区 市街化調整区域

設備概要

電気設備 受電方式／高圧6.6kV専用受電、地中埋設管路引込、屋内閉鎖型薄型キュービクル 変圧器容量／F種油入変圧器 (トッランナー対応高効率型)、1φ100kVA、3φ300kVA 予備電源／太陽光パネル5.7kVA (屋上)、外部非常電源接続盤

空調設備 空調方式／GHP+全熱交換器、EHP

衛生設備 給水／飲用：受水槽+加圧給水方式 洗浄水：雑用水槽+加圧給水方式 給湯／局所給湯方式 (屋外型瞬間湯沸器) 排水／屋内汚水雑排水分流方式、合併式浄化槽

防災設備 消火／屋内消火栓、窒素ガス消火設備、消火器排煙／自然排煙 その他／自動火災報知設備、非常放送設備

昇降機 機械室レス乗用13人乗 (900kg・45m/分)×1基 (バリアフリー対応)、機械室レス荷物用 (1,000kg・45m/分)×1基

表5 文化財センター施設一覧

施設名	文化財センター本館	旧武田家住宅	畜動舎	小屋
構造	RC造	木造	木造	木造
階数	地上3階	地上2階	地上1階	地上1階
建築面積 (㎡)	2,559.25	167.70	34.92	26.48
延床面積 (㎡)	4,494.83	208.19	34.92	26.48

表6 文化財センター諸室名及び面積一覧

1階		2階	
室名	面積 (㎡)	室名	面積 (㎡)
特別収蔵庫1	147.77	埋蔵文化財収蔵庫1	743.32
特別収蔵庫2	24.63	資料収蔵庫	48.85
民俗資料収蔵庫	416.58	図書室	89.33
展示室1・2	262.81	調査研究室	350.50
研修室1・2	139.95	遺物洗浄室	40.51
研修室用倉庫	40.49	写場	38.84
木器保存処理室	62.71	会議室	18.95
金属器保存処理室	61.50	ボランティア室	18.48
荷解・搬入口	227.78	機械室4	8.19
事務室	25.03	その他	253.50
更衣室	36.52	小計	1,610.47
電気室	23.58		
機械室1・2・3	103.83	3階	
その他	557.36	室名	面積 (㎡)
小計	2,130.55	埋蔵文化財収蔵庫2	736.11
		その他	17.70
		小計	753.81
		合計	4,494.83

表7 展示室・特別収蔵庫・資料収蔵庫の温度・湿度・照度等設定値一覧

展示室			特別収蔵庫				資料収蔵庫		
設定値	夏季	冬季	設定値	特別収蔵庫1 (木製品)		特別収蔵庫2 (金属製品)		設定値	通年
温度	26℃	22℃		夏季	冬季	夏季	冬季	温度	20℃
湿度	50～60%			湿度	26℃ 22℃	26℃ 22℃	湿度	40%	
照度	展示壁面 50～200ルクス			湿度		50～60%	40～50%	使用光源	UVカット型 蛍光灯
	展示物 50～200ルクス			使用光源		UVカット型 蛍光灯	UVカット型 蛍光灯	照度	200ルクス
	平均 100ルクス			照度		200ルクス	200ルクス		

主な外部仕上げ

屋根 アスファルト防水外断熱押え工法

外壁 せっ器質二丁掛タイル、外装用高耐候性左官、コンクリート化粧打放しフッ素樹脂クリア塗装

外構 磁器質450×900タイル模様貼、御影石、改良野芝 (エルトロ)

建具 木アルミ複合カーテンウォール、アルミサッシュ、アルミドア

主な内部仕上げ

エントランスホール 床／磁器質450×900タイル模様貼 壁／内装用左官材荒壁調仕上、内装用左官材漆喰調仕上、コンクリート化粧打放し 天井／GB-R t9.5+t12.5EP、岩綿吸音板、コンクリート化粧打放し

展示室 床／タイルカーペット 壁／GB-R t15+ t15EP 天井／岩綿吸音板EP

会議・研修室 床／天然リノリウム 壁／ビニルクロス、遮音移動間仕切 天井／リブ付岩綿吸音板

特別収蔵庫 床／両面アルミシート張不透湿耐水合板+ブナフローリング t15、鋼製床組H180 壁／両面アルミシート張不透湿板+調湿パネル t16、スプルス見切り額縁、二重壁W200 天井／両面アルミシート張低ホル

マリン合板+ロックウォール系調湿板 t12 什器／中量型移動ラック（免震タイプ）

埋蔵文化財収蔵庫 床／防塵塗装 壁／断熱材兼用型枠セラミック混入木片繊維板現し、水性調湿塗装 天井／直天井の上、水性調湿塗装 什器／中量型移動ラック

特記事項 室名表示板／新潟漆器角盆加工

（渡邊朋和）



文化財センター本館・旧武田家住宅・畜動舎



文化財センター近景

IV

文化財センターの概要

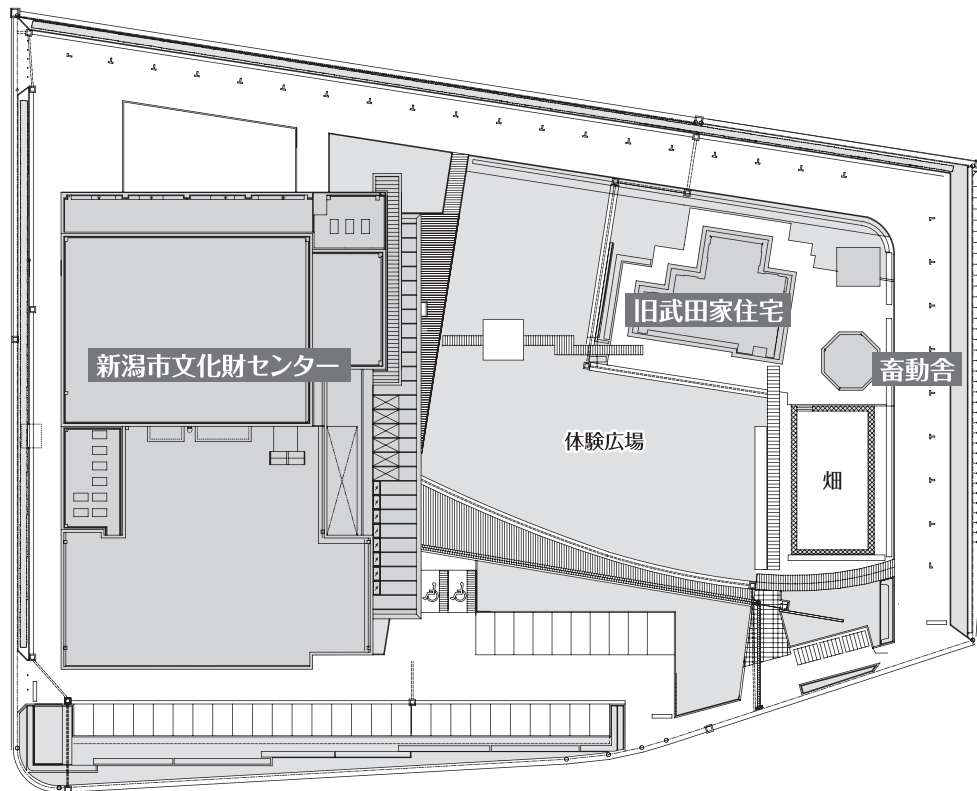
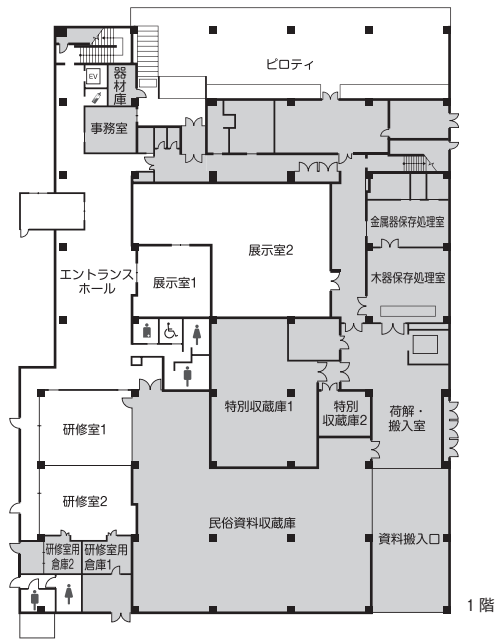
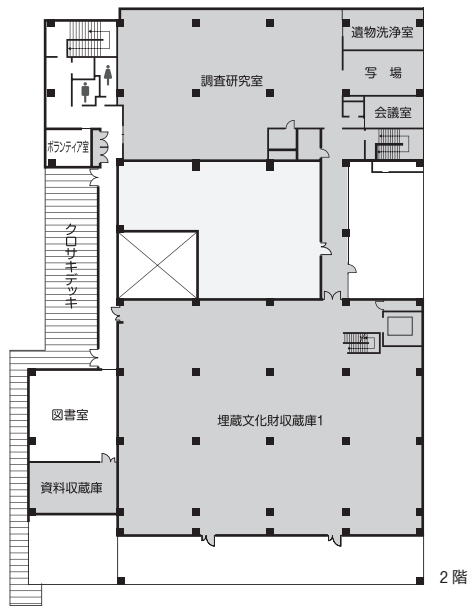


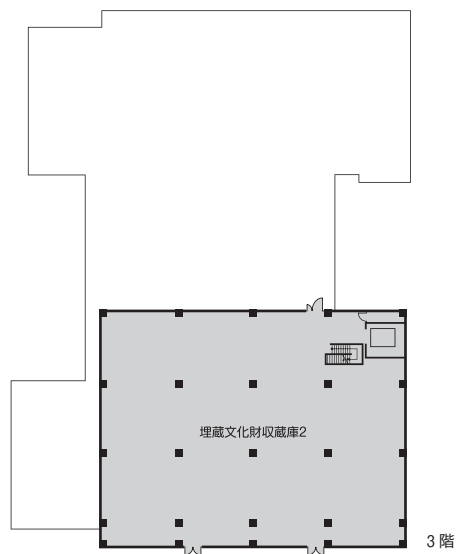
図2 文化財センター施設配置図



1階

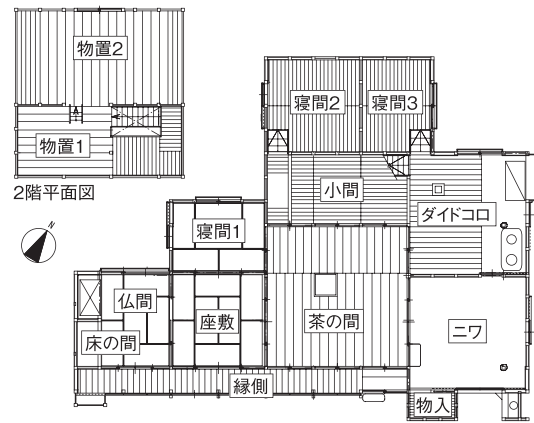
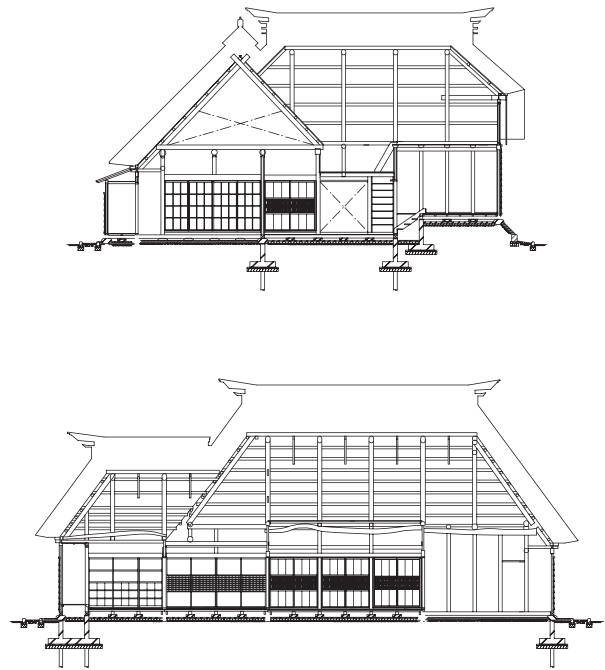


2階



3階

図3 文化財センター各階平面図



2階平面図

図4 旧武田家住宅平面図・断面図

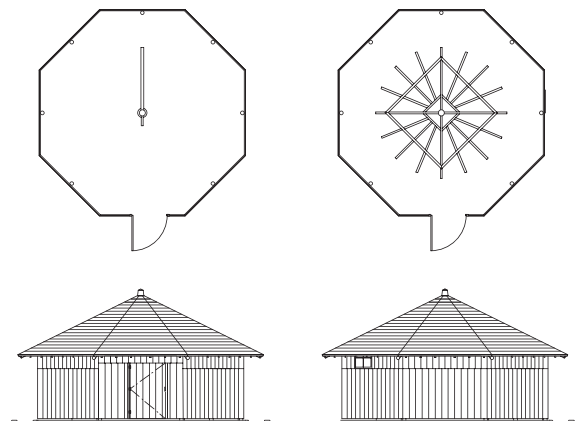


図5 畜動舎